

2023 年度新潟薬科大学大学院

応用生命科学研究科博士前期課程学生募集要項

(応用生命科学コース、理科教職専修コース、薬科学コース)

教育研究上の目的

応用生命科学研究科は、食品、農業、環境、創薬、医療及び保健衛生等の生命に関わる分野並びに理科教育の各分野における高度な研究能力を有し、信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

<応用生命科学コース/薬科学コース>

1. 求める学生像

本研究科が求める学生像は、次のような資質と意欲を有する者である。

- ・生命科学、食品科学、環境科学、薬科学に関する専門的な知識と技術の修得を志す人
- ・論理的思考力と研究活動の基礎を身に付けたいと望む人
- ・身に付けた専門的な能力を社会に還元する意欲をもつ人
- ・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢をもつ人

2. 入学前に修得が望まれる知識・能力

- ・応用生命科学の専門分野を学ぶための基礎学力
- ・応用生命科学部で学ぶ内容に相当する専門基礎知識
- ・専門知識を学ぶために必要な語学力及びコミュニケーション能力

<理科教職専修コース>

1. 求める学生像

本研究科が求める学生像は、次のような資質と意欲を有する者である。

- ・理科教育学、教育学に関する専門的な知識と技能、高度な教育実践力の修得を志す人
- ・論理的思考力と研究活動の基礎を身に付けたいと望む人
- ・身に付けた専門的な能力を、教職を通して社会に還元する意欲をもつ人
- ・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢をもつ人

2. 入学前に修得が望まれる知識・能力

中学校教諭一種免許状(理科)または高等学校教諭一種免許状(理科)、もしくはその両方を所持し、次のような知識・能力を身に付けておくことを望みます。

- ・理科教育学、教育学の専門分野を学ぶための基礎学力
- ・応用生命科学部で学ぶ内容に相当する専門基礎知識
- ・専門知識を学ぶために必要な語学力及びコミュニケーション能力

募集研究分野

<応用生命科学コース>

食品分析学、食品機能化学、グリーンプロセス・食品工学、食品安全学、動物細胞工学、応用微生物学、植物ゲノム科学、環境工学、グリーンケミストリー、生体分子化学、分子科学

<理科教職専修コース> (中学校教諭専修免許状(理科)、高等学校教諭専修免許状(理科)取得課程)

理科教育学、教育学、生物学

<薬科学コース>

有機薬化学、生化学、衛生化学、微生物学、薬品物理化学、薬剤学、機能形態学、社会薬学、薬理学、臨床薬学

◎ 各コースの研究分野に含まれる研究室から第1志望及び第2志望を選択して、入学願書に必ず記入してください。(『課題研究一覽』参照)。合格者の志望が特定の研究室に集中した場合は、志望順を考慮のうえ所属研究室を大学側が決定することがあります。

入試日程

| 入試種別 | 募集コース | 出願資格認定書類 提出期限 (該当者のみ) | 出願期間 | 試験日 | 合格発表日 | 入学手続期限 |
|----------|-------------------------|--------------------------|-------------------|------------------|-------------------|---------------|
| 学内推薦入試 | 応用生命科学 理科教職専修 | / | 2022年7月28日 (木) | 2022年 9月1日(木) | 2022年 9月12日(月) | 2022年9月30日(金) |
| 一般入試・第1期 | 応用生命科学 理科教職専修 薬科学 | 2022年6月23日(木) (必着) | ~8月4日(木) (必着) | | | |
| 一般入試・第2期 | 応用生命科学 理科教職専修 薬科学 | 2022年12月9日(金) (必着) | 2023年1月26日 (木) | 2023年 3月2日(木) | 2023年 3月13日(月) | 2023年3月20日(月) |

[入試に関する問い合わせ先及び書類提出先]

出願についての問い合わせ、入学願書及び入試過去問題等の請求は、本学新津キャンパス事務部教務第一課で受け付けます

〒956-8603 新潟市秋葉区東島 265 番地 1

電話:0250-28-5302 (土日祝日を除く 9時~17時) E-mail:kyoumu@nupals.ac.jp

《個人情報の取扱いについて》

- ・ 本学は、個人情報の保護に関する法律を遵守し、志願者の個人情報は、管理責任者のもとで適正に取り扱います。
- ・ 志願者の個人情報は、入試業務、入学手続業務及び選抜方法等の調査・研究、分析等業務並びに入学者については教務・学生支援関係業務のため、本学が共有し、利用します。

《学内推薦入試》

1 募集人員 3名程度

2 出願資格

入学を志願することのできる者は、次のいずれにも該当する者としてします。ただし理科教職専修コースを志望する者は以下(1)～(3)すべての事項に加え、中学校教諭一種免許状(理科)または高等学校教諭一種免許状(理科)取得(見込み)の者、もしくは両方の免許状を取得(見込み)の者としてします。

- (1) 2023年3月に卒業見込みの者
- (2) 学業、人物共に優れ、将来応用生命科学の分野での貢献が期待され、かつ、本学応用生命科学部指導教員から推薦された者
- (3) 本学大学院応用生命科学研究科応用生命科学コースまたは理科教職専修コースを専願し、合格した場合に入学を確約できる者

3 出願期間 2022年7月28日(木)～8月4日(木) <必着>

4 出願手続

志願者は、下記の出願書類を取り揃え、上記出願期間内に直接提出(土日祝日を除く9時から17時)又は郵送してください。出願書類等を郵送する場合は、簡易書留郵便とし、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書してください。

- (1) 出願書類等提出先 本学新津キャンパス事務部教務第一課
- (2) 入学検定料(22,000円)を次のいずれかの方法により納付してください。
 - ① 直接納付の場合: 本学新津キャンパスA棟2階事務部で証紙を購入のうえ、出願書類と共に提出してください。
 - ② 郵便為替による場合: ゆうちょ銀行又は郵便局の貯金窓口で普通為替証書に換えて、出願書類と共に提出してください。
 - ③ 銀行振込による場合: 以下の口座に振り込んでください。振込手数料は、志願者負担となります。「振込金受領書」又は「ATM利用明細書」等の写しを出願書類と共に提出してください。原本は、領収書となりますので、大切に保管してください。

第四北越銀行 本店(普) No. 2696604 口座名: 新潟薬科大学応用生命科学部

(3) 出願書類等

- ① 入学願書(本学所定の様式)
- ② 写真票・受験票・検定料納付書(本学所定の様式)
- ③ 成績証明書(本学所定の様式)
- ④ 【理科教職専修コース志願者のみ】教育職員免許状取得見込証明書または授与証明書(中学校教諭一種免許状(理科)または高等学校教諭一種免許状(理科)、もしくはその両方)
- ⑤ 志望理由書(A4用紙、様式任意)
- ⑥ 推薦書(本学所定の様式)
- ⑦ 顔写真2枚(出願前3か月以内に撮影した縦4cm×横3cmのもので、正面向き、無帽、無背景のものとしてします。同一のものを2枚、裏面に氏名を記入し、入学願書及び写真票の所定欄に貼付すること。)
- ⑧ 入学検定料振込証明書
※改姓等の理由により、出願時の氏名が各種証明書の記載氏名と異なる場合は、本人であることを証明する書類(戸籍抄本等)を添付すること。

5 選抜方法等

入学者の選抜は、面接及び出願書類により行い、合格者は、それらの結果を総合して決定します。

- (1) 試験日時 2022年9月1日(木)13時～
- (2) 試験場 本学新津キャンパス
- (3) 試験内容 面接

6 合格発表日時

2022年9月12日(月)13時

- ・ 合格者の受験番号を本学新津キャンパス正面玄関前に掲示により発表します。
- ・ 受験者へは、発表と同時に合格通知書を送付します。
- ・ 本学への電話による可否のお問い合わせには、一切応じられません。

7 入学手続

合格者は、合格通知書と共に送付される「入学手続のご案内」の指示に従い、所定の入学手続期間内に次の納付金を本学指定銀行口座に振り込み、併せて所定の入学手続書類を本学に提出することにより入学手続を完了してください。入学手続書類の提出期限と入学手続納付金の納付期限が異なりますので注意してください。

所定の入学手続書類は、合格通知書と共に送付する「入学手続のご案内」でお知らせします。

- (1) 入学手続書類提出期間 2022年9月12日(月)～2022年9月30日(金)
- (2) 入学手続納付金 269,930円(入学金免除、前期授業料185,000円、前期施設設備資金82,500円 委託経費2,430円) 2022年9月30日(金)までに納付してください。

8 学費及び委託経費

- (1) 授業料 年額370,000円(前期:185,000円、後期:185,000円)
- (2) 施設設備資金 年額165,000円(前期82,500円 後期82,500円)
- (3) 委託経費 2,430円(学生教育研究災害傷害保険等保険料(2ヵ年分))

9 障がい等のある志願者の事前相談について

疾病または身体に障がい等のある志願者で、受験上及び実習等を含む修学上の特別な配慮を希望する者は、出願の前に本要項 P.2「[入試に関する問い合わせ先及び書類提出先]」へ相談してください。すべての要望には添えない場合もありますが、相談の内容によっては学内の設備改修等、本学の対応に時間を要することもあるため、出願の意思決定に関わらず、できる限り早い段階で相談してください。

10 その他

- (1) 提出書類並びに既納の入学検定料は、返還しません。
- (2) 提出書類に虚偽の記載があることが判明した場合は、入学許可を取り消すことがあります。

《一般入試》

1 募集人員 5名

2 出願資格

入学を志願することのできる者は、次のいずれかに該当する者としてします。ただし理科教職専修コースを志望する者は以下(1)～(4)のいずれかの事項に加え、中学校教諭一種免許状(理科)または高等学校教諭一種免許状(理科)取得(見込み)の者、もしくは両方の免許状を取得(見込み)の者としてします。

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に規定する大学を卒業した者又は2023年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び2023年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程等を修了した者及び2023年3月までに修了見込みの者
- (4) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)その他本学大学院学則に規定する入学資格を有する者

◎ 上記の「出願資格(3)又は(4)」で出願する方へ

あらかじめ出願資格の確認・審査を行います。表紙の[入試に関する問い合わせ先及び書類提出先]へ電話連絡し、本学の指示に従ってください。出願資格の確認・審査を受けずに出願することはできません。

出願資格の確認・審査について、8ページにその概要を掲載しましたので、確認の上、手続きしてください(確認・審査書類の提出期限を定めていますので、注意してください。)

3 出願期間

【第1期】 2022年7月28日(木)～8月4日(木)

【第2期】 2023年1月26日(木)～2月6日(月) いずれも必着

4 出願手続

志願者は、下記の出願書類等を取り揃え、上記出願期間内に直接提出(土日祝日を除く9時から17時)又は郵送してください。

出願書類等を郵送する場合は、簡易書留郵便とし、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書してください。

(1) 出願書類等提出先 本学新津キャンパス事務部教務第一課

(2) 入学検定料(22,000円)を次のいずれかの方法により納付してください。

- ① 直接納付の場合: 本学新津キャンパスA棟2階事務部で証紙を購入のうえ、出願書類と共に提出してください。
- ② 郵便為替による場合: ゆうちょ銀行又は郵便局の貯金窓口で普通為替証書に換えて、出願書類と共に提出してください。
- ③ 銀行振込による場合: 以下の口座に振り込んでください。振込手数料は、志願者負担となります。「振込金受領書」又は「ATM利用明細書」等の写しを出願書類と共に提出してください。原本は、領収書となりますので、大切に保管してください。

第四北越銀行 本店(普) No.2696604 口座名:新潟薬科大学応用生命科学部

(3) 出願書類等

- ① 入学願書(本学所定の様式)
- ② 写真票・受験票・検定料納付書(本学所定の様式)
- ③ 出身大学の成績証明書
- ④ 大学卒業(見込)証明書又は独立行政法人大学評価・学位授与機構が発行する学位授与(見込)証明書
- ⑤ 志望理由書(A4用紙、様式任意)
- ⑥ 顔写真2枚(出願前3か月以内に撮影した縦4cm×横3cmのもので、正面向き、無帽、無背景のものとしてします。同一のものを2枚、裏面に氏名を記入し、入学願書及び写真票の所定欄に貼付すること。)
- ⑦ 検定料振込証明書類
- ⑧ **【理科教職専修コース志願者のみ】** 教育職員免許状取得見込証明書または授与証明書(中学校教諭一種免許状(理科)または高等学校教諭一種免許状(理科)、もしくは中学校教諭一種免許状(理科)及び高等学校教諭一種免許状(理科))
- ⑨ **【外国籍の志願者のみ】** 在留カード又は外国人登録証明書又は旅券の写し
- ⑩ **【薬科学コース志願者で「外国語(英語)」の免除希望者のみ】** 外国語(英語)試験免除願(本学所定の様式)、外部英語検定・資格の成績証明書の写し(平成30年度3月文部科学省発行「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」に記載のある外部英語検定・資格の成績証明書)

※審査結果は、受験票返送時にお知らせします。

⑪ **【薬科学コース志願者で「外国語(英語)」以外の科目の出題を英語で希望する者のみ】** 入学試験上の配慮願(本学所定の様式)

※改姓等の理由により、出願時の氏名が各種証明書の記載氏名と異なる場合は、本人であることを証明する書類(戸籍個人事項証明書等)を添付すること。

5 選抜方法等

入学者の選抜は、学力試験、面接及び出願書類により行い、合格者は、それらの結果を総合して決定します。

(1) 試験日時

【第1期】 2022年9月1日(木)9時～

【第2期】 2023年3月2日(木)9時～

(2) 試験場 本学新津キャンパス

(3) 試験内容

<応用生命科学コース>

| 時 間 | 試 験 科 目 等 |
|-------------------|--------------------------------|
| 9:00～9:45 (45分) | 化学または生物学のいずれかを選択解答 |
| 10:00～10:45 (45分) | 専門科目 第1志望及び第2志望の研究室出題の問題を解答 |
| 11:00～12:00 (60分) | 外国語 (英語) |
| 13:00～ | 面接 |

<理科教職専修コース>

| 時 間 | 試 験 科 目 等 |
|-------------------|-----------------------|
| 9:00～9:45 (45分) | 化学または生物学のいずれかを選択解答 |
| 10:00～10:45 (45分) | 専門科目 理科教育学及び教育学を解答 |
| 11:00～12:00 (60分) | 外国語 (英語) |
| 13:00～ | 面接 |

<薬科学コース>

| 時 間 | 試 験 科 目 等 |
|-------------------|---------------------------------------|
| 9:30～10:50 (80分) | 専門科目 第1志望または第2志望の研究室出題の問題から1題を選択解答 |
| 11:00～12:20 (80分) | 外国語 (英語) |
| 12:30～ | 面接 |

6 合格発表日時

【第1期】 2022年9月12日 (月) 13時

【第2期】 2023年3月13日 (月) 13時

- ・ 合格者の受験番号を本学新津キャンパス正面玄関前に掲示により発表します。
- ・ 合格者へは、発表と同時に合格通知書を送付します。
- ・ 本学への電話による可否のお問い合わせには、一切応じられません。

7 入学手続

合格者は、合格通知書と共に送付される「入学手続のご案内」の指示に従い、所定の入学手続期間内に次の納付金を本学指定銀行口座に振り込み、併せて所定の入学手続書類を本学に提出することにより入学手続を完了してください。第1期については入学手続書類の提出期限と入学手続納付金の期限が異なりますので注意してください。

所定の入学手続書類は、合格通知書と共に送付する「入学手続のご案内」でお知らせします。

(1) 入学手続書類提出期間

【第1期】 2022年9月12日 (月) ～2022年9月30日 (金)

【第2期】 2023年3月13日 (月) ～2023年3月20日 (月)

- (2) 入学手続納付金 552,430円 (入学金 200,000円、前期授業料 185,000円、前期施設設備資金 165,000円、委託経費 2,430円)
2023年3月20日 (月) までに納付してください。

(3) 入学辞退について

2023年3月31日 (金) 16時 (必着) までに入学辞退を申し出た場合は、入学金を除く学費及び委託経費を返還します。それ以外の場合については、委託経費のみ返還します。

入学を辞退する場合は、入学辞退届 (合格通知書に同封) を郵送 (簡易書留による速達) してください。

なお、上記申出期日までに郵送済みで、入学辞退届の提出 (本学受領) が不確実の場合は、必ず上記申出期日の16時 (厳守) までに事務部教務第一課にご連絡ください。当該連絡を受領したときに限り、上記前段の返還の対象に加えます。

8 学費及び経費等

(1) 学費

- ① 入学金 200,000円 (入学時のみ。本学の卒業者は免除します。)
- ② 授業料 年額 370,000円 (前期: 185,000円、後期: 185,000円)
- ③ 施設設備資金 年額 330,000円 (前期: 165,000円、後期: 165,000円 本学卒業者は前期: 82,500円 後期: 82,500円)

- (2) 委託経費 2,430円 (学生教育研究災害傷害保険等保険料 (2ヵ年分))

9 長期履修制度

職業を有する等の事情により、標準修業年限 (2年) を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、審査の上、長期履修学生として、その計画的な履修を認めることがあります。長期履修学生の修業年限は3年とし、その授業料の年額は、通常の学生の納める2年分の授業料 740,000円を修業年限の年数である3で除した額となります。詳細は、本学新津キャンパス事務部教務第一課までお問い合わせください。

10 障がい等のある志願者の事前相談について

疾病または身体に障がい等のある志願者で、受験上及び実習等を含む修学上の特別な配慮を希望する者は、出願の前に本要項 P.2「[入試に関する問い合わせ先及び書類提出先]」へ相談してください。すべての要望には添えない場合もありますが、相談の内容によっては学内の設備改修等、本学の対応に時間を要することもあるため、出願の意思決定に関わらず、できる限り早い段階で相談してください。

11 その他

- (1) 提出書類並びに既納の入学検定料は、返還しません。
- (2) 提出書類に虚偽の記載があることが判明した場合は、入学許可を取り消すことがあります。

出願資格の確認・審査について

前記「2 出願資格(3)又は(4)」に該当する方については、本学へ電話連絡の上、次により出願資格の確認・審査を受けてから出願してください。出願資格の確認・審査を受けずに出願することはできませんので、注意してください。

1 提出書類等

次の①～⑦のうち、出願資格により本学が指定する書類を提出してください。

- ① 出願資格確認書（本学所定の様式）
 - ② 出願資格認定審査調書（本学所定の様式）
 - ③ 最終出身学校の卒業証明書
 - ④ 最終出身学校の学業成績証明書
 - ⑤ 在留カード若しくは外国人登録証明書又は旅券の写し（外国籍の志願者のみ提出）
 - ⑥ 返信用封筒（封筒（長形3号）に申請者の住所、氏名及び郵便番号を明記し、郵便切手 360 円分を貼ってください。）
 - ⑦ その他本学が必要と認める書類
- ※改姓等の理由により、出願時の氏名が各種証明書の記載氏名と異なる場合は、本人であることを証明する書類（戸籍個人事項証明書等）を添付すること。

2 提出方法

提出書類等は、下記の提出期限内に本学新津キャンパス事務部教務第一課まで直接提出（土日祝日を除く 9時から 17時）又は郵送してください。

郵送する場合は、簡易書留郵便とし、封筒の表に「大学院出願資格関係書類在中」と朱書してください。

3 提出期限

【第1期】2022年6月23日（木）

【第2期】2022年12月9日（金）いずれも必着

4 出願資格確認・審査結果の通知

出願資格確認・審査の結果は、出願期間開始前までに本人あて郵送により通知します。

出願資格を認定された申請者は、出願手続を行ってください。

なお、出願資格の確認・審査のために提出した書類で出願書類と重複するものについては、再提出の必要はありません。

5 提出先及び問い合わせ先

新潟薬科大学新津キャンパス事務部教務第一課

〒956-8603 新潟市秋葉区東島 265 番地 1

電話:0250-28-5302（土日祝日を除く 9時～17時）

E-mail:kyoumu@nupals.ac.jp

●新潟薬科大学大学院応用生命科学研究科博士前期課程課題研究一覧（一部変更になる場合があります）

<応用生命科学コース>

| 研究分野 (研究室名) | 担当教員 | | 課題研究の概要 |
|----------------------------|-------------------------|------------------|---|
| | 職名・学位 | 氏名 | |
| 食品分析学 (食品分析学) | 教授・薬学博士 | 佐藤 眞治 | メタボリック症候群などの生活習慣病を予防する機能性食品の開発と機能評価。 |
| 食品機能化学 (食品機能化学) | 教授・博士(農学) 助教・博士(学術) | 松本 均 能見 祐理 | ポリフェノールやビフィズス菌、オリゴ糖などの機能性食品とその素材の有効性、機能性メカニズムに関する研究。 |
| グリーンプロセス・食品工学 (食品・発酵工学) | 教授・博士(農学) 准教授・博士(工学) | 重松 亨 井口 晃徳 | 安全性や経済性を満たす低環境負荷な食品加工技術ならびに環境保全技術の確立を目指した高圧力および微生物機能の応用に関する研究。 |
| 食品安全学 (食品安全学) | 准教授・博士(理学) | 西山 宗一郎 | 食中毒の防止に関する研究。ノロウイルスやボツリヌス菌など食中毒関連病原体の感染制御・環境応答の研究。HACCPの企業への適応と普及の推進。 |
| 動物細胞工学 (動物細胞工学) | 教授・博士(理学) | 市川 進一 | 酸化ストレスなど、細胞ストレスによる細胞死の研究。スフィンゴ脂質の生理機能についての研究。遺伝子改変による神経機能の解明。脂肪肝抑制法の研究。 |
| 応用微生物学 (応用微生物学) | 教授・博士(農学) 助教・博士(農学) | 高久 洋 暁 山崎 晴 丈 | 資源枯渇、地球温暖化問題の解決へ向け、情報科学を利用した微生物の物質生産機能改変(スマートセル)による省エネルギー・低コストの高機能品生産の研究。分裂酵母の寿命延長機構に関する研究。 |
| 植物ゲノム科学 (植物細胞工学) | 准教授・博士(農学) | 相井 城太郎 | 植物における生殖、変異及び有用形質発現のメカニズム解明と、データを駆使した健康に資する次世代植物の開発に関する研究。 |
| 環境工学 (環境工学) | 准教授・博士(工学) | 小瀬 知 洋 | 化学物質の計測法の開発と環境動態解明等への応用。持続可能な社会の実現に資する廃棄物の循環利用法及び新しい水処理法の開発に関する研究。 |
| グリーンケミストリー (環境有機化学) | 教授・博士(工学) 助教・博士(理学) | 中村 豊 小島 勝 | 糖などの再生可能資源を出発原料とする生理活性天然物の効率的な合成に関する研究。 |
| 生体分子化学 (生体分子化学) | 准教授・博士(理学) | 宮崎 達 雄 | 生体分子である糖質やステロイドなどを基本骨格とする新たな機能性分子の設計および合成に関する研究。 |
| 分子科学 (化学) | 教授・博士(理学) | 新井 祥 生 | 有機溶媒を使わない環境に優しい新規固体反応の研究および植物又は動物中の有用物質の研究。 |

<理科教職専修コース>

| 研究分野 (研究室名) | 担当教員 | | 課題研究の概要 |
|------------------|---------------------------|--------------------|--|
| | 職名・学位 | 氏名 | |
| 理科教育学 (理科教育学) | 教授・修士(学校教育) 教授・博士(理学) | 村上 聡 (兼)新井 祥生 | 構成主義的学習論に基づく理科の授業づくりとその実践に関する臨床的研究。科学的概念を形成するための教材・教具の開発とその効果の検証。有機溶媒を使わない環境に優しい新規固体反応の研究。 |
| 教育学 (教育学) | 教授・修士(教育学) | 木村 哲 郎 | 教育現場での参与・非参与観察に基づく教育実践研究。シティズンシップを育てるカリキュラムと指導方法の開発。 |
| 生物学 (生物学) | 講師・博士(水産学) 教授・修士(学校教育) | 小長谷 幸 史 (兼)村上 聡 | モデル生物や環境に関する生物指標などの生物教材とその効果的な使い方の実践に関する研究。生物を扱う人としての見方・考え方を育む教育方法の検討。 |

<薬科学コース>

| 研究分野 | 研究室名 | 担当教員 | | 課題研究の概要 |
|--------|--------------------|--|------------------------|---|
| | | 職名・学位 | 氏名 | |
| 有機薬化学 | 薬化学 | 教授・薬学博士 | 杉原多公通 | 高効率分子変換反応の開発に関する研究。新規ガス固定反応の開発。新概念に基づく医薬品の合成研究。 |
| 生化学 | 生化学 | 教授・博士(薬学) 准教授・博士(薬学) | 小室晃彦 小宮本昌彦 | 抗ウイルス自然免疫に関わる分子の作用機構の解明、ウイルスと宿主因子の相互作用に関する研究。 |
| 衛生化学 | 衛生化学 | 教授・博士(薬学) 准教授・博士(薬学)・博士(保健学) 助教・博士(医学) | 酒巻利行子 冨塚江利子 佐藤浩二 | エネルギー代謝を標的とする創薬に関する基礎研究。生体成分および薬毒物の体内動態に関する研究。がん細胞の増殖制御に関連する遺伝子の機能解析に関する研究。 |
| 微生物学 | 微生物学 | 准教授・博士(薬学) 准教授・博士(理学) | 福山正博 山口利男 | 様々な環境条件下における各種細菌の生育検討ならびに薬剤耐性臨床分離菌株の遺伝子解析に関する研究。 |
| 薬品物理化学 | 薬品物理化学 | 教授・博士(学術) | 星名賢之助 | 光物理化学・量子化学計算に基づく新規化学反応の機構解明、および、広い意味での物理刺激による医薬品物性や生体反応への影響の評価、分析法への応用研究。 |
| 薬剤学 | 生物薬剤学 | 教授・博士(薬学) | 久保田隆廣 | 薬物感受性の個体差に起因する変異遺伝子を探索し、その表現型に及ぼす影響を解析する研究。 |
| 機能形態学 | 機能形態学 | 准教授・博士(理学) | 岩田武男 | 肥満とその合併疾患の発症機序に関する研究。 |
| 社会薬学 | 社会薬学 | 教授・博士(薬科学) | 富永佳子 | 薬局薬剤師の職能発揮と職種間連携に関する研究。患者の行動変容を促す手法に関する研究。薬局拠点の生活習慣病予防に関する研究。 |
| 薬理学 | 薬効薬理学 | 教授・博士(薬学) 准教授・博士(薬学) | 前田武彦 前川原浩一 | 薬効評価手技と薬物治療標的分子に関する研究。 |
| 臨床薬学 | 臨床薬物治療学 | 准教授・博士(薬学) | 神田循吉 | 骨代謝疾患の病態解明、時間薬理学を加味した薬物治療法に関する基礎研究。 |
| | 臨床薬学 教育 センター | 教授・博士(薬学) | 朝倉俊成 | 糖尿病治療薬および医療用具の適正使用に関する研究。薬剤使用評価に関する研究。薬剤過敏症の臨床解析に関する研究。薬剤過敏症の臨床解析に関する研究。 |
| | | 教授・博士(医学) | 坂爪重明 | |
| | | 教授・博士(薬学) 准教授・博士(薬学) | 齊藤幹央 阿部学 | |

●授業科目及び修了要件等（一部変更になる場合があります）

◎応用生命科学コース、薬科学コース

| 所属コース | 授業科目名 | 単位数 | 修了要件 | 所属コース | 授業科目名 | 単位数 | 修了要件 |
|-------------|------------|-----|------------------------------------|-----------|------------|-----|------------------------------------|
| 応用生命科学コース指定 | 研究リテラシー I | 1 | 必修 （5単位以上選択必修） （他コース特論から選択可） | 薬科学コース指定 | 研究リテラシー I | 1 | 必修 （5単位以上選択必修） （他コース特論から選択可） |
| | 動物細胞工学特論 | 1 | | | 有機薬化学特論 | 1 | |
| | 生体分子化学特論 | 1 | | | 薬品製造学特論 | 1 | |
| | 植物分子細胞学特論 | 1 | | | 生薬・天然物化学特論 | 1 | |
| | 環境工学特論 | 1 | | | 生化学特論 | 1 | |
| | 有機合成化学特論 | 1 | | | 衛生化学特論 | 1 | |
| | 応用微生物学特論 | 1 | | | 微生物学特論 | 1 | |
| | 食品分析学特論 | 1 | | | 薬品物理化学特論 | 1 | |
| | 食品機能化学特論 | 1 | | | 薬品分析化学特論 | 1 | |
| | 環境発酵微生物学特論 | 1 | | | 薬理学特論 | 1 | |
| | 食品安全学特論 | 1 | | | 薬剤学特論 | 1 | |
| | 分子科学特論 | 1 | | | 臨床薬剤学特論 | 1 | |
| | | | | | 臨床薬理学特論 | 1 | |
| | | | | | 臨床医学特論 I | 1 | |
| | | | | | 臨床医学特論 II | 1 | |
| | | | | | 臨床化学特論 | 1 | |
| | | | | | 薬物動態学特論 | 1 | |
| | | | | | 臨床薬学特論 | 1 | |
| | | | | 応用生命科学コース | 応用生命科学演習 | 9 | 必修 |
| | | | | | 応用生命科学実験 | 15 | |
| | | | | 薬科学コース | 薬科学演習 | 9 | 必修 |
| | | | | | 薬科学実験 | 15 | |
| 合計 | | | | | | | 30 単位以上 |

◎理科教職専修コース

| 授業科目名 | 単位数 | 修了要件 |
|--------------|-----|-----------------|
| 研究リテラシー I | 1 | 必修 |
| 動物細胞工学特論 | 1 | 7 単位以上 選択必修 |
| 生体分子化学特論 | 1 | |
| 植物分子細胞学特論 | 1 | |
| 環境工学特論 | 1 | |
| 有機合成化学特論 | 1 | |
| 応用微生物学特論 | 1 | |
| 環境発酵微生物学特論 | 1 | |
| 分子科学特論 | 1 | |
| 生物学特論 | 1 | 必修 17 単位 |
| 教育社会学特論 | 1 | |
| 理科教育法特論 | 5 | |
| 教育臨床実習事前事後講義 | 2 | |
| 教育臨床実習 | 4 | |
| 理科教職実験 | 5 | 5 単位1科目 選択必修 |
| 理科教職演習 A | 5 | |
| 理科教職演習 B | 5 | |
| 合計 | | 30 単位以上 |

【修了要件】

本課程を修了するには、2 年以上在学し、応用生命科学コース、理科教職専修コース、薬科学コースともに 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。ただし、優れた業績を上げた者の在学期間については、1 年以上在学すれば足りるものとします。

【学位】

上記の修了要件を満たした者に修士（応用生命科学）の学位を授与します。